

機関番号：13301

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2010

課題番号：21730717

研究課題名（和文）1930年代における困難児・障害児保育問題と保育科学の成立に関わる諸学の動向

研究課題名（英文）The problem of infant with difficulties and the current of studies for nursery care in Japan during 1930'

研究代表者

河合 隆平（KAWAI RYUHEI）

金沢大学・学校教育系・准教授

研究者番号：40422654

研究成果の概要（和文）：

本研究は、戦前の保育問題研究会が提起した「保育科学」の動向に着目し、障害乳幼児や発達困難幼児の「保育時代」の誕生というライフコースの変動に対して、関連諸学が保育科学として領域横断的に統合化される過程の解明を目的とした。21年度は、1930年代における障害乳幼児・発達困難児問題の顕在化を当事者のライフコースにおける「保育時代」の誕生の意味を社会史的視点から検討した。22年度は、保育科学の成立に向けた諸学の動向と統合化の過程を検討した。

研究成果の概要（英文）：

The purpose of this study was to clarify the positioning of problems of infants with childcaring difficulties in the science of childcare in prewar. I focused on achievement of childcare theory of infants with childcaring difficulties in the prewar time. In the reason, the childcare theory for infants with childcaring difficulties can divide into next four segmentation: ① idea and purpose, ② subject, ③ system, ④ childcare content and method.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,000,000	300,000	1,300,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・特別支援教育

キーワード：(1)1930年代 (2)保育科学 (3)保育困難児 (4)障害児保育 (5)城戸幡太郎学派 (6)保育問題研究会 (7)恩賜財団愛育会 (8)総力戦体制

1. 研究開始当初の背景

日本の特別支援教育では、ライフステージ全般を見通したトータルな教育支援が求められている。とくに就学前期の支援は、医療・福祉・教育の総合的な支援が必要となる。一方、保育所や幼稚園では、発達障害、「気になる子ども」、虐待などの問題が顕在化しており、特別な保育ニーズを有する子どもへの対応は、特別支援教育、幼児保育という従来の枠組みを超えた総合的な早期発達支援をめぐる現代的課題といえる。

こうした状況において、本研究は日本における特別ニーズ保育の歴史的系譜として総力戦体制下の保育科学研究運動による困難児・障害児保育の実践研究の動向に注目した。これまでの研究作業を通して、戦前保問研の困難児・障害児保育研究について検討しているが、「保育問題研究」という枠組みで取り組まれた困難児・障害児保育研究が、関連諸学と関連しながら「保育科学」という新しい実践・研究体系をどのように構築したのかを検討する課題が残されていた。

保問研が提起した「保育科学」とは、保育学や児童心理学だけにとどまらず、医学や社会衛生学、児童保護論などを統合して、乳幼児期の発達・障害・生活問題をトータルかつ実践的に解決しようとする学的パラダイムの転換をめざしたものとのおさえられる。したがって、乳幼児期の障害・発達困難の解決に向けて、関連諸学が統合化されるプロセスの検討は、特別支援教育と通常保育・教育の「連携と協同」ないし実践と研究の「連携」にかかわる基本的視座を設定するうえでも、その「可能性」・「未発の契機」を歴史的に探る作業として位置づくものと考えた。

2. 研究の目的

本研究は、1930年代の困難児・障害児保育問題に対する社会的実践科学として保問研

が提起した「保育科学」の動向に着目し、障害乳幼児や発達困難幼児の「保育時代」の誕生というライフコースの変動に対して、関連諸学が保育科学として領域横断的に統合化される過程の解明を目的とした。

3. 研究の方法

本研究では、保育科学の成立を、単なる学問の動向にとらえるのではなく、困難児・障害児保育問題を含む乳幼児期の発達課題に対処する社会的実践科学の誕生と仮定して分析する。そのために、実践方法・制度政策・理論と分立的に検討するのではなく、当事者（子ども・家族）の生活や発達の諸相を「生きた歴史」としてトータルにとらえようとする教育社会史の方法論を導入した。

それは、「戦争と保育」というイデオロギーから一旦離れて、障害や発達困難を抱えた当事者のライフステージとして、また実践・研究対象として、「保育時代」（教育対象としての就学前期）が誕生することの意味と、それに呼応して、保育学、心理学、医学、衛生学などの関連諸学が統合されながら「保育科学」として成立する過程を明らかにするうえでも有効である。戦時体制という時局・イデオロギーだけに還元されない、当事者とそれに向き合う実践者・研究者の主体的な保育の要求と課題を浮かび上がらせたいと考えるからである。以上をふまえて本研究の課題と方法を以下の二点に設定した。

①保育科学の成立基盤を明らかにするために、1930年代における障害乳幼児・発達困難児問題の顕在化を当事者（子ども・家族）のライフコースにおける「保育時代」の誕生と仮定し、当事者からみた「保育時代」の意味を、社会変動や人口問題などの社会構造的視点から分析する。

②児童心理学、社会衛生学、社会医学の

各領域における障害と発達困難に対する対象認識と対処方法論の検討を通して、諸学が保育科学の提唱を受けて、どのように交流し、統合化されたのかを分析する。

4. 研究成果

21年度は、1930年代における障害乳幼児・発達困難児問題の顕在化を当事者（子ども・家族）のライフコースにおける「保育時代」の誕生と仮定し、その意味を社会史的視点から検討した。具体的には、愛育研究所「異常児保育室」の実践を通して、障害児保育実践の成立過程とその意味を「異常児」とその家族、保育実践を支えた保姆の双方の視点から検討した。とりわけ、保育に携わった保姆・小溝キツの実践と思索を彼女の保育記録の読み解きを通じて明らかにし、戦時下における障害児保育実践の誕生の意味を考察するために、①小溝の発達観と保育観、②家族による「異常児」の子育てをめぐる心性、③時局と保育実践の間に立つ保姆としての自己意識や「異常児保育」の心性、という3つの分析視点を設定した。本研究にあたり、日本子ども家庭総合研究所図書室において、小溝キツに関する史料調査を実施した。

愛育研究所の「異常児保育」は、従来看過されてきた「幼児時代の異常児」を包摂する新たな実践として立ち上がってきたのであり、それは障害児保育実践の誕生を意味した。異常児保育は人的資源論や優生問題として言説化され、「幼児時代の異常児」の早期介入、統制として構想されていたが、実践の具体相には戦争というイデオロギーやファクターに回収されない「保育実践」の世界が認められた。「異常児」を「いかに生かすか」という「異常児保育」は、小溝に保姆として「いかに生きるか」という問いと矜持を鋭く内面化させるものであり、国家目標や時局認識も、矛盾なく子どもの発達を追求する保育

として実践化されていた。

22年度は、保育科学の成立に向けた諸学の動向と統合化の過程を検討した。とくに、保育科学と関連諸学における発達論の形成過程に着目し、城戸幡太郎学派の研究動向を検討した。史料としては、保育問題研究会『保育問題研究』、教育科学研究会『教育』、児童学研究会『教材と児童学研究』等の機関誌における論稿を中心に検討した。上記の作業を通して、諸学が既存の対象論・方法論に自己限定することなく統合され、保育科学として成立してくるプロセスを考察した。

具体的には、①波多野完治の自我研究と社会性研究、②山下俊郎の乳児研究と基本的な生活習慣の研究、③正木正の性格心理学研究を分析して、発達における障害の認識とその発達の助成の方法論がどのように構築されたのかを検討し、保育科学の中心課題として「発達と障害」の理論が据えられていたことを明らかにした。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計4件）

- ① 河合隆平「恩賜財団愛育会と戦時下の障害児保育問題」『日本学術振興会科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究）「子ども」の保護・養育と遺棄をめぐる学際的比較史研究（ディスカッション・ペーパー）』WEB版・第2号、40-44頁、2011年
- ② 河合隆平「戦時下における小溝キツと「異常児保育」の世界—保育記録にみる障害児保育実践の誕生—」『幼児教育史研究』第5号、1-16頁、2010年。
- ③ 河合隆平「「支援」のまなざしが生まれ

るとき—戦時下「保育問題」としての障害児
保育研究の登場—』『心理科学』第30巻2号、
92頁、2010年。

④河合隆平「1970年代における障害乳幼児政
策とその問題構制—保育要求から問題の再
構成へ—」『障害者問題研究』第37巻3号、
11—19頁、2009年。

〔学会発表〕（計1件）

① 河合隆平「障害児保育実践の誕生—「異
常児保育」と保姆・小溝キツ—」幼児教育史
学会第5回大会（2009年12月5日、法政大
学）

6. 研究組織

(1) 研究代表者

河合隆平 (KAWAI RYUHEI)

金沢大学・学校教育系・准教授

研究者番号：40422654